



見る。測る。分析する。世界を牽引する最先端の技術は、柔軟に発想し、臨機応変に働く、「人」の力から生まれてくる。

株式会社日立ハイテク

ナノテクノロジーソリューション事業統括本部 鳴守 智子
評価解析システム製品本部 解析システム設計部
アナリティカルソリューション事業統括本部 伊藤 真結子
医用システム製品本部 医用システム第二設計部

大学院に進学した理系女子が、就職先を日立ハイテクに決めるまで

鳴守 私が高専で研究していたのはコレラ毒素タンパクの生体膜への作用についてでした。専攻は化学なのですが、生物や物理などもカバーしなければならぬ領域で、まさに基礎研究。博士課程に進む道もありましたが、同じテーマをずっと追求していくのは、自分に向いていないかもしれないと感じるようになり、つねにさまざまな技術や商品に携われる企業への就職をイメージし始めました。

医療機器メーカー、材料メーカーなどいろいろな業界を回った中で、日立グループも選択肢になってきて、グループ採用制度応募をしました。志望先は日立ハイテク。研究でも使っていた電子顕微鏡を取り扱っていましたし、人事の方も面接官も「しっかりしている」印象が持っていて、好感を抱いたのを覚えています。

伊藤 私も修士まで進学し、薬理学を専攻していましたが、ホルモンの分泌によって、細胞のどの部分にどのような作用が起きているか、どんな物質が出るのか。当時は治癒はする病気でなくなる方を減らしたいという想いを持って研究していましたが、基礎研究は結果が出るのに時間がかかりますし、本当に答えが出るかどうかもわからない。嶋守さんと同じように私も少しずつ、着実に具体的な答えを出せる開発の仕事に興味を持つようになりました。

嶋守 入社した2011年は東日本大震災があった年で、通常とは異なるスピードで本配属されました。私が任されたのは電子顕微鏡の使い勝手や性能をお客様の前でデモンストレーションする業務。お客様は一般企業の方から病院、大学、警察といった専門機関で働いている方と様々で、それぞれに分析したい試料があります。ものごとと顕微鏡は小さなものを見る装置ですが、検出器など周辺機器と接続して成分解析を行う際にも使います。営業やマーケティング部門の社員と連携しながら、顧客の試料の観察や測定をして見せ、日立ハイテクが開発した電子顕微鏡の機能的な使い方を教えたり、使い方の幅を広げたりする仕事。社内では「ソリューション開発」という呼ばれ方をしています。

新人として任されたこと、その役割と仕事の意義

伊藤 私は2019年4月入社なので、まだ2年目です。研修を終え、正式に配属先で仕事を始めたのが10月下旬。そこから、海外製薬メーカーと共同開発している、臨



床検査用分析装置の評価と改良に携わり始めました。ユーザーとなるのは臨床検査技師の方で、血液サンプルや試薬を反応容器に移して自動分析する装置です。私が最初に担当したのは、分注したサンプルの分量が正確かどうかをチェックする仕事。ピペットのような機構が吸って吐いたごく微量なサンプルの量を地道に測定する作業です。ね、正しい結果が出なければ問題点を探り、チームメンバーと議論しながら改善策を検討するのが私の仕事です。

異分野での格闘、異国での刺激、そこから見えてきた自分なりの課題

嶋守 いま私が携わっているのは、ナノプローブという半導体デバイスの不良解析を行う装置の開発です。これまで携わってきた業務とは異なり、現在担当しているのはGUR (Grain Electrical User Interface)と呼ばれる操作画面の機能設計やデザインなので、正直、ゼロから勉強し直しました。ただ、これまで実際に装置を使うユーザーの生の声を拾い上げてきた経験は大いに生きていると感じます。操作画面の位置、見やすさ、クリックのしやすさ、レバーの動かしやすさなどは、開発の上流工程で女性の意見を入れておくことも重要。というのも、お客様である半導体メーカーの工場では、専門知識のない女性作業員も多く働いているからです。顧客が中国、韓国、台湾など海外が中心なので、語学習得にも取り組んでいるところです。

伊藤 引き続き新製品の開発に励んでいます。入社1年目の終わりには、ドイツ出張のメンバーに選んでいただき、現地で試作機の据え付けを行ってました。設計チームは「機械」「電気」「ソフト」分析の4グループに分かれていますが、ドイツに向いたのは4グループ合わせて数人程度。試作段階の分析装置をセッティングし、複雑な各機種の性能評価を実施し、パートナーである海外製薬メーカーと今後に向けた議論をする。非常に刺激的な体験になりました。嶋守さん同様、私も語学力の大切さを痛感したので、ビジネスで通用する英語力は身に付けたと思っています。コロナ禍になり、現在は日本とドイツで遠隔コミュニケーションを取りながら、次の試作に向けて開発を進めています。

技術系企業で女性が働くということ、それを支える制度とカルチャー

嶋守 世の中全般同様に、技術系企業である当社も女性割合が決して高いわけではありません。たとえば私の



所属するグループは10人ちょっとですが、女性は私だけ、全社を見渡しても、機械や電気より、伊藤さんのように分析の分野で活躍している女性のほうが多い印象です。大学や大学院の時点で、機械系や電気系を専攻する女性がまだ少ないことの反映でしょうか。ただそれも、時代とともに変わっていくはずですし、装置を扱うユーザーの多様化が進んでいる中で、開発でもダイバーシティが進んでいくのは自然な流れだと私は考えています。ジェンダーレスな装置をつくるのが私の理想ですね。

福利厚生に関しては、当社はかなり充実していて、子育て中の身である私も大変助かっています。制度の存在を社員がもっと知れば、男女問わずさらに有効活用してくれる気はしています。

伊藤 確かに女性は少数派ですが、特に不向きややりにくさを感じたりすることはありません。大きな会議に出席すると、父親世代の男性社員に囲まれることは多々ありますが、皆さんフランクなので堅苦しさはないですね。また、若手が意見を言うことを良くする会社なので、私なりに「あれ？」と思うことは指摘や、場合によっては批判的な発言をする場面もあります。それに対して肩をひそめる人はいませんし、積極的に発言をしたことが評価される文化もあります。そうした柔軟さは、開発環境にもプラスに働いているのではないのでしょうか。

先輩に聞くと、女性管理職は年々増えているようですよ。私も長く働きたいと考えているので、将来的に結婚や出産といったライフイベントを経験しても、仕事と私生活の両立はしていきたいと思っています。

臨機応変に柔軟に変わりゆく時代に、思う技術者としての未来

嶋守 人は仕事のために生きていくわけではなく、仕事はあくまで生活や人生の一部。それが私の価値観なんです。なので、もちろんライフスタイルはいろいろあって良い。だから、たくさんの価値観のハリエーションに臨機応変に対応して働けるかどうか、私の考える「良い仕事」です。ひとつの型しかない状態では、新しい発想のモノづくりもできませんし、厳しいマーケットで生き残ってはいけませんからね。10年近く日立ハイテクで働いてきて、いま思うのは、や

はりお客様のご喜顔をしながら開発を続けることが私のモトメーションだということです。この先どのような製品、どのような工程を担当するかわかりませんが、ユーザーの声を製品に反映するための橋渡しという役割は、私の仕事であり続けたいと思います。伊藤 「良い仕事」って本当に働く人の数だけあると思うのですが、少なくとも今日のよう流動性の高い会社の中では、時代に対応して柔軟に変化していける仕事でなければ淘汰されてしまうと思います。新型「コロナウイルス」で動き方も大きく変わりましたが、柔軟に対応できていく企業とそうでない企業とで、大きな差も出ていくと感じます。当面の目標は、いま担当している新製品を市場に出せるまでしっかりと向き合いたいということ。そのために分析業務だけでなく、機械や電気やソフトウェアについても積極的に知識を吸収したい。いつかは、既存製品の改良や、それに伴う新製品の選定や評価などにも携わりたい気持ちはありますが、何となくとも新製品を担当できる機会が貴重なので、このあたりがたい環境から多くを学んでいきたいです。

Company Information
立役者であれ
日立ハイテクは、「見る・測る・分析する」を基盤に、「アナリティカル・ソリューション」「ナノテクノロジー・ソリューション」「インダストリアル・ソリューション」の3つのセグメントで幅広い事業展開を行っている会社です。
会社概要
社名/株式会社日立ハイテク 英文社名/Hitachi High-Tech Corporation 略称/日立ハイテク
設立/創業 1947年4月12日 資本金/7,938,480,525円(2020年3月31日現在)
代表者/宮崎 正徳 本社所在地/〒105-6409 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号 虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー